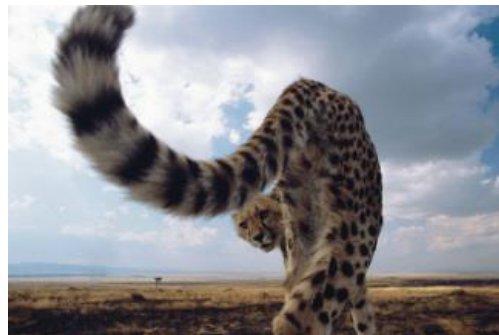




# 「Sometimes, look back.」

学年主任 對馬 洋介

## 《ふりかえる》



期末試験が本日終わり、まもなく一学期が終わろうとしています。4月の入学式から始まり、ウェルカムキャンプ、体育祭を始め、あっという間であったと思います。

楽しい夏休みを迎える前に11期生の皆さんと一緒に考えたいことがあります。

本校にとって君たちは大切な「じんざい」です。君ならばどんな漢字に変換しますか。

- 1 「人罪」 なんだか人に迷惑をかけてそうですね...
- 2 「人在」 いるだけでも大切なので、良さそうですが、いるだけという感じもします。
- 3 「人材」 世間でよく聞きますね。でも私から言わせたら、「材料」だから換えがききそうです。
- 4 「人財」 代わりはない財産、しっくりきます。
- 5 「人才」 才能がある人、これも悪くはないですね。

君の答えは何だったでしょうか。

さて勉強の仕方、授業の受け方、掃除の仕方等々、いろいろ「やり方」は学んだと思います。でも、もっと大切なのは、「心のあり方」なのです。

もちろんやり方を知らないと困ることはたくさんありますが、そのやり方を実践しても、うまくいかないことがあるのも事実です。その時に、自分の「心のあり方」を立ち止まって考えてみましょう。例えば、

挨拶、誰に対しても同じようにできていますか。

言葉使い、親しき仲にも礼儀あり、となっていますか。

教室等の掃除、大きく(大雑把)ではなく、小さく(隅々)キレイにしていますか。

授業態度や課題等、主体的に聞き、発言、「考」動し、取り組んでいますか。

うまくいかなかったことがあったならば、謙虚に受け止める

うまくいったことがあったとしても、謙虚に周りに感謝する

これからも君が、周りの人にとっての「人財」となるように、中学一年生の一学期を振り返ろう。そして時には立ち止まって人生を考えよう。



最後に、先週まで教育実習生として1年生を担当していました宇田川先生からメールが届きましたので紹介します。

## 「教育実習を終えて」

みなさん定期試験の方はいかがでしたか？みなさんが試験で忙しくしている間、先生は大学に提出する実習関係の書類をまとめながら皆さんと過ごした時間についてあれこれの思い出にふけったりいろいろ反省したりしていました。

一緒に授業や掃除をしたり、部活で皆さんのがんばっている姿を眺めていたり、放課後にお話ししたり、お菓子をめぐってじゃんけんをしたり、日誌や提出物の皆さんの言葉に返事を書いたり、皆さんにとっては日常の一コマにすぎないことかもしれませんが、先生にとってその一つ一つがとても貴重な時間でした。先生を高校時代に担任してくれたある先生は、いつの間にか当たり前になりすぎて感動を忘れてしまった、とおっしゃっていましたが、先生は少なくとも皆さんと過ごした3週間については忘れることがないだろうと思っています(先生には「当たり前」ではないのです)。

大学もしっかり考えて時間を使えばとても楽しいところです。しかし高校までのようにみんなで何かすることは滅多にありません。そもそもクラスで集まること自体、一年に片手で数えられるくらいしかありません。6年間使い切ってから、宝仙にいられる間にあれをもっと楽しんでいければ、と思っても、おそらくもう同じような機会に恵まれることはほとんどないでしょう。大学に進んだ後も、宝仙でできた友人とはたまに集まったり連絡のやり取りをしたりしています。

先生はこのあと、英語と心理学の勉強をして、スクールカウンセラーの資格をとるために進学し、おそらく3、4年後には教師かカウンセラーとしてどこかの学校に勤務することになると思います。また会えるといいですね。

先生は最初の入学試験まであと2か月。先生もしばらくお勉強頑張ります。それでは。

2017.7.5. 宇田川 修之進

【宇田川先生からの本の紹介】サンテグジュペリ『星の王子様』

▲池澤夏樹・訳 集英社文庫



【宇田川先生からの映画の紹介】「聲の形」(山田尚子監督)



▲繋がりたいのに繋がらない、伝えたいのに伝わらない、そんな自分や人が許せない。耳が聞こえない少女と深い罪悪感の中で生きる主人公の、過酷ながらも暖かく優しい物語。◀「大人たちはこれがどんなに大事なことが理解できないだろう！」大人になるって何だろう...？